NEW CROWN　授業実践事例

BOOK 3　LESSON 4　授業例①

M.Y. 先生

指導計画表
（全 9 時間）

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら ・プレ活動 ■GET ・文法の導入 ・コミュニケーション活動
2	■GET ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解
3	■GET ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解
4	■GET ・語句・表現の導入 ・本文の導入・理解
5	■USE READ ・語句・表現の導入 ・本文の理解
6	■USE READ ・語句・表現の導入 ・本文の理解
7	■USE READ ・まとめ ・「ヒロシマの折鶴」
8	■USE LISTEN ・リスニング
9	■USE WRITE ・メッセージを考える

実践例

1.　教材について

The Story of Sadako は，佐々木禎子さんの一生や，原爆の子の像にこめられた人々の願いを知ることを通し，命や平和の尊さについて考えさせる教材となっている。

戦争は決して過去の出来事ではない。私たちは，今なお世界各地で起きている戦争や紛争について学習し，未来を築く者として世界中の人々に平和を訴えていかなくてはならない。禎子さんの残した想いから，今自分たちにできることは何なのかを考えさせたいと考えた。

2.　内容の理解を深めるために　～導入における意識づけ～

まず，授業の最初に筆者の中学生時代の修学旅行（広島）について短いスピーチを行い，平和公園を訪れたことや，原爆の子の像を見たことを語った。写真を見せ，“Have you ever visited Hiroshima?” “Who is this girl?” などの質問をしながら導入を進めたが，佐々木禎子さんのことを知らない生徒が案外多いことがわかり驚いた。

勤務校では 5 月に修学旅行で沖縄を訪れ，平和学習の中で戦争体験の聞き取りをしている。そのことも質問に含めながらの oral introduction になった。学習の導入にあたり，教師や生徒の体験を具体的にイメージさせることで，本文の内容理解を深める糸口にしていけるのではないかと考えた。

3.　GET の指導

<call + A + B>や<make + A + B><It ~ (for A) to …>などの文法指導の場面では，パターンプラクティスやコミュニケーション活動を組み入れながら，定着をはかった。新出文法の導入の際には，生徒のよく知る有名人や，身近な人・ことがらを例に出しながら説明することも多いのだが，この課では，最終的に自分の思いを表現したり，平和の尊さを訴えるメッセージをつくったりする力をつけたいと考えたため，それを意識した例文や語彙をインプットしようと試みた。その際，三省堂から出ている「アクティビティ　アイデア集 3」「リーディング　アイデア集」なども参考にした。

原爆ドームや広島平和記念資料館について書かれた GET では，音読についても，本文にこめられたメッセージを考えて読むことをうながした。例えば，Part 1 には，“The Dome reminds us of the tragedy of war.” “The Dome also reminds us of the importance of peace.”といった文があるが，現在に残された戦争の遺跡から，私たちは何を学ぶことができるのだろうか，ということを考えさせた。本文を音読しながら，生徒たちは「沖縄のことも表現できるよね」と感想を述べていた。教科書の内容が，これまでの自分の体験と結びつく実感を得られた瞬間だったのではないだろうか。”We have many things to learn about world peace.” “We learned a lot of things about the tragedy of war in Okinawa.” と自分の考えや体験を書いている生徒もいた。Part 2 でも同じように，教科書の本文で習った表現が，実際に自分たちの体験したことや学んだことを表すのに活用できると生徒は感じられたのではないだろうか。

音読練習では，日常行っている Chorus reading や Shadowing 以外にも，「もし，自分が原爆ドームのことを周りの人に伝えようとするならば，どういった読み方がふさわしいだろう」「Emma は何に衝撃を受けたのだろう」といったことなども考えさせ，場面設定や表現を工夫しながら読ませることも行った。強勢やスピード，間の取り方などに工夫をして音読する生徒が何人もいた。Speech や Presentation の取り組みだけが，表現力を伸ばすわけではない。音読然り，writing 然りである。教科書の本文をさらに臨機応変に，自由自在に活用していくノウハウを得たいと筆者も考えている。内容理解については，英語での Q&A を入れながら，生徒の状況把握を試みた。

4.　Read の指導

まずは佐々木禎子さんの写真を提示し，oral introduction をおこなった。その後，本文を読みな

がら，教科書の In-Reading の問題を解いていく。話の概要をつかむところから，生徒は次第に禎子さんの想いに近づいてくる。若く，希望に満ちていたはずの少女が，なぜ病院のベッドで千羽鶴を折らなくてはならなかったのか，少女の願いは何なのか，ということに迫ってくると，ようやく生徒にも本文にこめられたメッセージが見えてくる。その後，教科書の Post-Reading の問題にとりかかった。「外国の人から佐々木禎子さんのことをたずねられたときに，どう説明しますか」といった問いに，生徒たちは禎子さんの人生を反芻しながら，英文を完成させていく。この問いには，日本人として，世界の人々に戦争の悲惨さ，平和の大切さを説いていくことの重要性がこめられていることに，生徒も気づけたのではないだろうか。

音読では，Read で学んだこと，感じたことを表現させた。読解が中心の Read ではあるが，音読指導においても表現力を磨く格好の教材となる。勤務校では，中国の中学校と交流をしたり，大学で学ぶ留学生を招聘して国際理解学習を行ったりしているが，グローバルな視野をもった生徒の育成を目指していく上で，自らの文化や歴史を知り，発信していく力は必要かつ重要なものと考えられる。今回の The Story of Sadako は，そういった点からも，大いに活用できるものであるし，また，生徒が自らの平和観や，世界平和の在り方を考える上でも非常に有用な教材である。生徒たちには音読の際，「世界の人々に，佐々木禎子さんのことを伝えるために，どのように読むことが効果的だろうか」と考えさせた。それぞれが，自分なりに感じたことをこめながら読もうとする姿勢がこちらにも伝わってきた。言葉に感情・意思をのせる，そうした音読を今後もさせていきたい。

5.　生徒の発信力を高めたい

Read の読解が終わると，長い文章を要約させる作業を行った。内容を再確認させるという意味と，英文を再構築することで，今後の writing 活動につなげていく意図によるものである。USE Write では，今の自分たちにとって大切なことをメッセージとして書くことになっている。「戦争と平和」だけでなく，「環境問題」「食糧問題」といったグローバルな問題から，身近な「家族のこと」「学校生活」など，生徒が自らの思いや意見を表現するよい機会である。それらをグループで交流した後には，メッセージカードにして，今後クラスや学校内に掲示できないかと考えている。また，それぞれのメッセージについて，生徒がフリートークをしたり，互いに質問しあったりする中で，生徒の発信力も高まるのではないかと期待している。そして，LESSON 6 におけるキング牧師の人生やアメリカの公民権運動などの学習にもつながるような，自分の理想とする生き方を英語で表現していける力に発展させていきたい。また，秋に予定している，グループによる Presentation に向けても生徒の意欲を高めていきたいと考えている。

6.　おわりに

今回の学習を通し，生徒は戦争によって私たちが失うものとは何か，平和な世界を築いていくために私たちにできることは何かを考え，自分の考えを英語で表現する機会を得た。卒業まで数ヶ月の 3 年生の生徒にどのような力をつけていくのか，CAN-DO リストを意識しながら，日々の活動の中で目標・課題を明らかにし，必要な手だてをとっていきたい。英語で書かれたり，聞いたりした内容を理解するところから，さらに，自分が発信者となって思いや考えを表現できる，そういった学習者をこれからも育成・支援していきたいと考えている。

＜今後できるようになりたいこと～1 学期を終えての振り返りから～＞

- ただ意味がわかるだけでなく，内容を考え，感情をこめて読めるようにしたい。
- 授業で学んだことを活かし，自分の表現の幅を広げて，感情を表したりするのに役立てたい。
- 「習って読んで書く」だけでなく，自分から積極的に発信，交流ができたらと思う。